

小袋谷の小字小名

昭和四二年の住居表示の変更によって小袋谷の地名が付く地域が大きく狭められました。小袋谷新道と梅田川との間の地域は大船3丁目と大船4丁目の一部になりました。そして柏尾川と梅田川との間の地域は台1丁目と大船1丁目の一部になりました。それまでも状況の変化によって多少変わってきたようです。例えば鎌倉市が発行した各地域の長老の話をまとめた「としよりのはなし」の中にはまだ大船駅が出来ない頃、玉縄首塚は小袋谷村だった。昔は道の左側にあったと書かれています。

住居表示の変更前までは、八反目、戸部、鶴舞田、谷耕地、砂押の五つの小字に分かれていました。しかしこの五つになったのは、明治八年頃に実施された地租改正にともなってそれまでの小字小名を集約した時からです。明治の初めまで二十以上の小字小名がありました。徳川幕府の代官によって行なわれた一六七八年の検地では、二十二の名が記録されています。先程の五つの他に、さいの神、地藏前、八石田、苗間、五反田、寺田、安廻り、一反所、双六免、殿田、堀合、三反町、関口、下谷堀、上谷堀、沓形、寺ノ前などです。いずれもいわれがありそうな名ですが、今ではそれをうかがい知ることは出来ません。